

総務建設常任委員会協議会会議録	
1 開会日	平成22年6月21日 午後 1時30分 開会 午後 4時36分 閉会
2 場 所	議員控室
3 出席委員	柴崎茂委員長 高橋英俊副委員長 山口陽一委員 清水弘子委員 三澤龍夫議員 百瀬恵美子委員 坂田よう子委員 山田喜一議長
4 傍聴議員	鈴木京子議員 奥津勝子議員 浅輪いつ子議員 竹内恵美子議員 土橋秀雄議員
5 説明員	町長 三好正則 副町長 吉川重雄 相田政策課長 森田主幹 青木副主幹 西海主任主事 鈴木総務課長 岩本財政課長 宮代副主幹 二挺木建設課長 青木技幹 近藤主査 矢野都市計画課長 竹内副技幹 福山主任主事
6 職務のため 出席した職員	局長 飯田 隆 書記 岩田隆吉
7 協議等の事項	(1) 第四次総合計画（中期基本計画）について (2) 行政評価について (3) 分庁舎計画について (4) 大磯38-1汚水幹線整備工事について (5) 大磯町地域公共交通総合連携計画（コミュニティバス）について
8 その他	

(1) 第四次総合計画（中期基本計画）について

第四次総合計画中期基本計画案（平成 23 年度～平成 27 年度）について重点プロジェクトを中心にした説明があった。

◎主な質疑

問. 33 ページのバイオマスタウン構想に基づく取組をはじめとする低エネルギー消費型のまちづくりのイメージは。

答. 民間活力を利用して資源の再利用・循環により消費するエネルギーを低く抑えて環境に配慮したまちづくりを進めていきたいという取組みである。

問. 172 ページの 2010 年度の現況の歴史的建造物等の指定箇所数 3 箇所はどこか。

答. 文化財指定されている滄浪閣、鳴立庵、島崎藤村邸の 3 箇所である。

※案に対する意見は 7 月 31 日までに議員が個別に事務局又は政策課に提出（事務局に提出したものの写しを保管）。

※福祉文教常任委員会に計画案を説明するかどうかは委員長に諮って決める。

(2) 行政評価について

今年の 9 月までに一般会計予算事業のうち約 70 事業を内部評価（一次・二次評価）、その中の 20～30 事業の外部評価を行い、結果を町民に公表するとの説明があった。

◎主な質疑

問. 外部評価の学識経験者はどなたを予定しているのか。また町民公募の選考基準は。

答. 神奈川大学准教授の諸坂先生にお願いをしている。町民公募は行わず、行政改革推進委員会委員の増井さんと畑さんに行政評価委員会の委員を委嘱している。

問. 行政評価委員会は公開か。外部評価を行う事業の選択は。

答. 公開である。外部評価を行う事業は、町が評価してもらいたい事業は別として委員が選定する。

(3) 分庁舎計画について

本庁舎の老朽化など様々な課題を解消するために分庁舎計画についてもあわせて検討をしていく必要があるとの説明があった。

◎主な質疑

問. 総合計画案に本庁舎、コミュニティ施設、消防庁舎が出ていたが、町の考え方は。

答. 現計画にも本庁舎、消防庁舎の記載はある。本庁舎の検討が平成 15 年で止まっているため、検討を再開する必要がある。

問. 分庁舎の検討の期限は。

答. 東京電力からは正式な期限は定められていないが、平成 20 年 4 月に話があって 2 年が経過しており、早めに議会の御意見等いただきながら町の方向性を定めていきたいと思っている。

問. 話が唐突過ぎる。財政的な裏付け、国府支所のあり方、消防の広域化、町としての優先順位をどう考えているのか。

答. 庁舎整備には莫大なお金がかかるのですぐにとはいかない。基金の積み立てとともに 10 年先を見据えた取り組みが必要である。議会でも特別委員会等を設置していただいて一緒に考えていただきたい。

(4) 大磯 38-1 汚水幹線整備工事について

事故繰越しした大磯 38-1 汚水幹線整備工事のその後の経過と完成時期が延びるとの説明があった。

◎主な質疑

問. 今年の工事予定区域への影響は。

答. 今年度は国府橋の下を越す工事を予定している。この工事によっての影響はない。

問. Φ800mmではなくΦ500mmの泥土圧式で行うことは考えなかったのか。

答. Φ500mmの泥土圧式は推進可能な長さに 200mの基準があり、この工法で行うためには中間にもう 1 本立坑を掘る必要があり通行や騒音などを考えてΦ800mmの泥濃式を採用した。

問. 交通規制は。

答. 通行止めにはすることはないが、若干の交通規制はある。

問. 現場の管理はどうなっているのか。亀井工業との詰めの内容は。出来高は。

答. 元請けの亀井工業が管理を行っている。最終的な段取りの詰めをしている。残りの区間の金額は 3,824 万 3,940 円である。

問. Φ800mmをΦ500mmに変えたら金額が余るのでは。

答. 新たに立坑設置等の費用が発生した。

(5) 大磯町地域公共交通総合連携計画（コミュニティバス）について

大磯町の公共交通に関する経過と地域公共交通総合連携計画策定検討結果についての報告があった。

◎主な質疑

問. 案がいろいろ出ているが、町としてどうするかをはっきり決めなくてはいけないと思うが。

答. 交通過疎地域が出てくることは間違いないので、駅まで乗り入れることを考えると、神奈川中央交通によるコミバス運行が一番いいと考え

ている。

問. 案として小中学校のスクールバスは必要である。朝と夕の通学・通勤者の手立て、高齢者にはタクシー券で対応すればいいのでは、

答. スクールバスについては、コミュニティバスの運行時間を調整すれば対応できるものと考えている。

意. 地元が使いやすくてできることを重視してほしい。